

(報道資料)

「クローズアップ現代」BPO意見についてのコメント

平成27年11月6日
NHK広報局

裏付け取材を行わず、報道番組で許容される範囲を逸脱した表現で重大な放送倫理違反があったという意見や、制作者の間で情報の共有が行われていなかったという指摘を真摯に受け止めます。

事実関係については、NHKの調査結果が概ね認められたと考えています。

事実に基づき正確に報道するという原点を再確認し、現在進めている再発防止策を着実に実行して、信頼される番組作りにあたっていきます。

「クローズアップ現代」報道に関する調査報告を受けた
再発防止策の実施状況について

NHKは今回のような問題を繰り返さず、事実に基づいて正確に放送するために、提案から、取材、編集、試写など全ての制作過程で、チェックを強化する再発防止策を5月29日に決定し、本部の放送関係部局と全国の放送局で実施しています。実施状況は以下のとおりです。

再発防止策については半年後をめどに検証して実効性を高めていくこととしており、12月中に実施状況や効果などをまとめて公表します。

▼ジャーナリストとしての再教育の実施など

今回の教訓を一過性のものとせず繰り返し確認するため、6月以降、管理職や若手職員を対象にした研修で、放送法や放送ガイドラインに掲げられている「事実に基づいて正確に放送する」という基本を再確認しています。

4月から5月にかけて全国の放送現場で緊急の討議・勉強会を行い、職員・スタッフが問題点や課題を確認しましたが、12月には再度勉強会を全国で実施します。また番組制作を担当する関連団体を対象にした勉強会を6月、7月に行ったほか、11月に外部のプロダクションを対象にしたセミナーで、今回の問題を取り上げます。

▼「匿名化した映像」のチェックの導入

全てのニュース・番組を対象に「匿名での取材・制作のチェックシート」を導入し、匿名インタビューについて必要性や内容の真実性などを検討・判断しています。匿名チェックシートは「クローズアップ現代」などの報道番組はもちろん、生活情報番組やドキュメンタリー番組、ETVの教育・福祉番組、海外向けのNHKワールドの番組など、様々な番組で使用しています。制作現場からは、シートを使うことで匿名インタの必要性をより厳しく検討するようになったとか、取材制作スタッフ間での情報共有がスムーズに行われるようになったなどの声が寄せられています。

▼試写などによるチェックの強化

問題となった事実関係の誤りや、過剰な演出、視聴者に誤解を与える編集などを防ぐために、提案から試写までの取材・制作過程のチェックを強化しています。

番組の提案から放送までのリスクを“見える化”する「取材・制作の確認シート」については、「クローズアップ現代」で導入し、6月1日の放送分から全ての放送で使用しています。

また、取材・制作担当者とは別の担当者や上司、局内で高い専門性を持つ職員が参加する「複眼的試写」は、「クローズアップ現代」以外にも、ニュースや報道番組、生活情報番組やドキュメンタリー番組など様々なニュース・番組で必要に応じて実施しています。

▼その他

放送前に番組や台本を見て助言を行う事前考査によるチェックを強化し、多くの視聴者が見る番組や新番組などで、匿名チェックシートの使用状況などを考査の重点項目にして実施しています。また考査室が番組の制作部局と、どのような点に注意を払うべきか意見交換をしながら、考査の充実を図っていく取り組みも進めています。

大型企画開発センターに「クローズアップ現代」事務局を設けて、番組の管理・責任体制を強化しました。